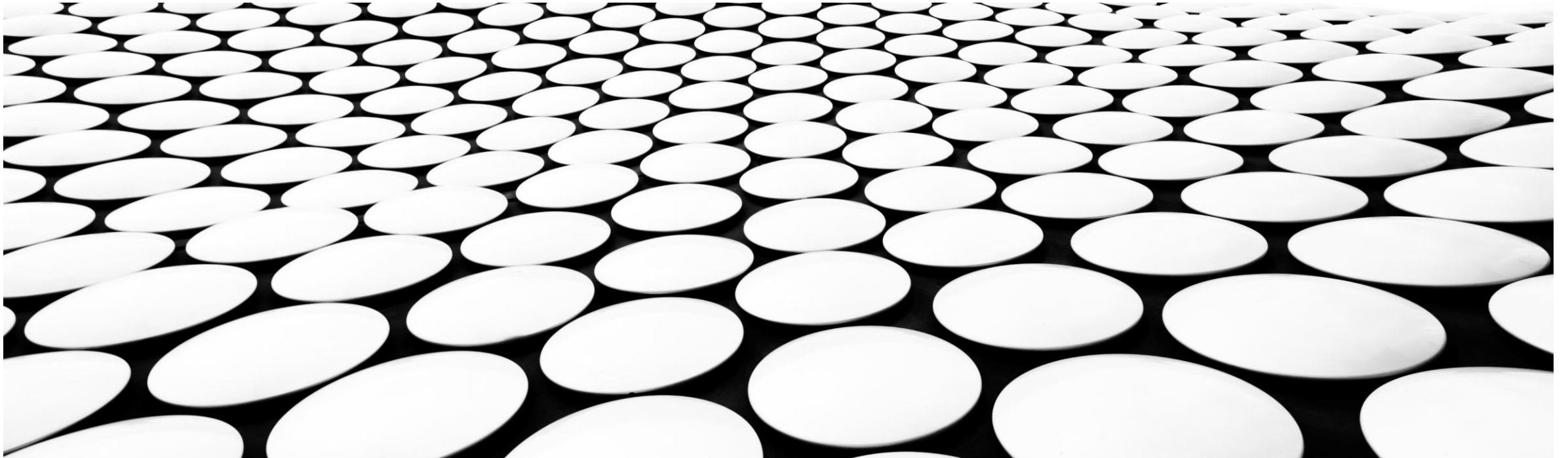



WELL-BEINGなミエに向けて ～産官学連携・協働の未来・可能性～

萩原なつ子 (独) 国立女性教育会館理事長





SDGs 目標8 働きがいも経済成長も

- 包摂的かつ環境と両立しうる持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
- ターゲット8.5
- “2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。”  **ジェンダーギャップの解消**

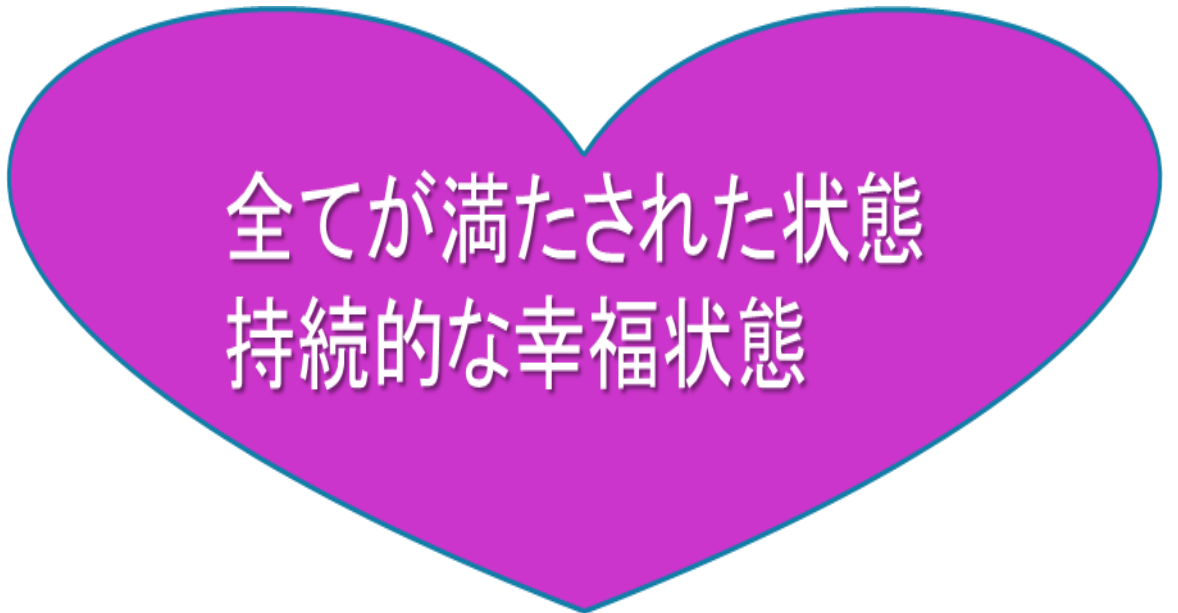
中央教育審議会生涯学習分科会における議論

- 誰もが生涯にわたって、意欲をもって学び、スキルを身につけ、活躍できる
- 学び続けてスキルアップをし続ける社会を構築するためには、一度、社会に出てからも、教育機関と仕事の行き来をしながら、学ぶことがあたりまえの社会となる必要
- **人生100年時代** ➡ 学ぶ時期や進路が複線化
- 社会人の学び直し(リカレント教育)などの生涯学習の必要性の高まり
- 自らの意思でリスキリングを行い、職務を選択できる制度に移行していく
- 社会的包摂とその実現を支える地域コミュニティの重要性
- **ウェルビーイングの考え方の浸透**
- 出典: 第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理(概要) (mext.go.jp)

世界保健機関 (WHO) 1946年

Well-being = 個人の幸せ + 周囲の「場」のよい状態

Well-being ⇨ 「人間本来の健康的豊かさ」
これからの時代の中核的価値観



日本はウェルビーイングな状態にあるの・・・

▶ 子どもを産みたくても産めない。

⇒働き続けながら安心して産み、育てるような 環境が整っていない

▶ 仕事を続けられる環境にない

⇒結婚離職、出産離職, 介護離職

▶ 仕事と子育て, 介護などのケア労働との両立が大変

⇒ケアギャップ、ケアレスメン(ケア労働を免除されていると思っている男性の存在)

▶ 長時間労働、ダブルケアで健康破壊

⇒ヘルスケア、メンタルヘルスケア



人生100年時代 チャールズ・ハンディの4つのWork (1994)

様々なワークを同時並行で取り組むライフスタイル

ワークもライフもソーシャルも! 充実した生き方をめざす考え方

人生の4つのワーク

家庭ワーク



家事、育児、
介護など



有給ワーク



雇用、自営、
兼業・副業など



ギフトワーク



ボランティア、
社会活動など



学習ワーク



学び直し、
勉強会など



©2020kaosakai



チャールズ・ハンディ (Charles Handy/1932年-)
経営学の権威でロンドンビジネススクールの創設者の一人。

多様な主体の連携・協働の意味

➤ ゆるやかなネットワークとノットワーク

- 異質・異種とのつながりの重要性
- 期限つきで機嫌よく!

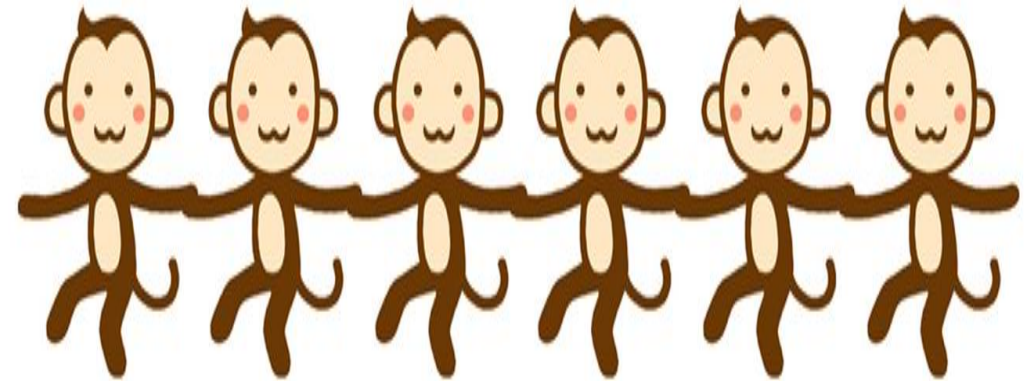
➤ 弱い紐帯の強さ

- ゆるやかなつながりの中に強さが生まれる
- 親しい友人同士は、同じつながりをもってやすい。
- 親しくない友人は、異なった知り合いをもっている、情報をもたらす

大事なことは

ノットワーキング

knot = 結び目



◇ ジェンダー

身体的性別を理由に私たちをしばっている役割や決まり事
私たちたちの社会や文化の中でつくられてきた「男らしさ」
「女らしさ」というイメージ☞社会規範

◇ ジェンダー・ギャップ

- ・男性や女性に関する思いこみ（バイアス）から生まれる機会や結果の不平等な差
- ・性別によって、個人の生き方や行動が制限されたりすること

◇ ジェンダー・バイアス

- ・「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」という無意識の偏見、思いこみ、決めつけのこと

☞無意識の偏見、思いこみ/アンコンシャス・バイアス

ジェンダー・バイアスやギャップはなぜ問題か？

- 人生の選択肢や可能性の剥奪につながる。

三重県の現状

- ▶ 都道府県ジェンダー・ギャップ指数
 - 経済分野 46位
 - フルタイムの仕事に従事する男女間の賃金格差 47位
 - 共働き家庭の家事・育児等の時間の男女格差 41位
- ▶ 人口減少の加速化



令和5年版『男女共同参画白書』（2023年6月） 「昭和モデル」から「令和モデル」へ

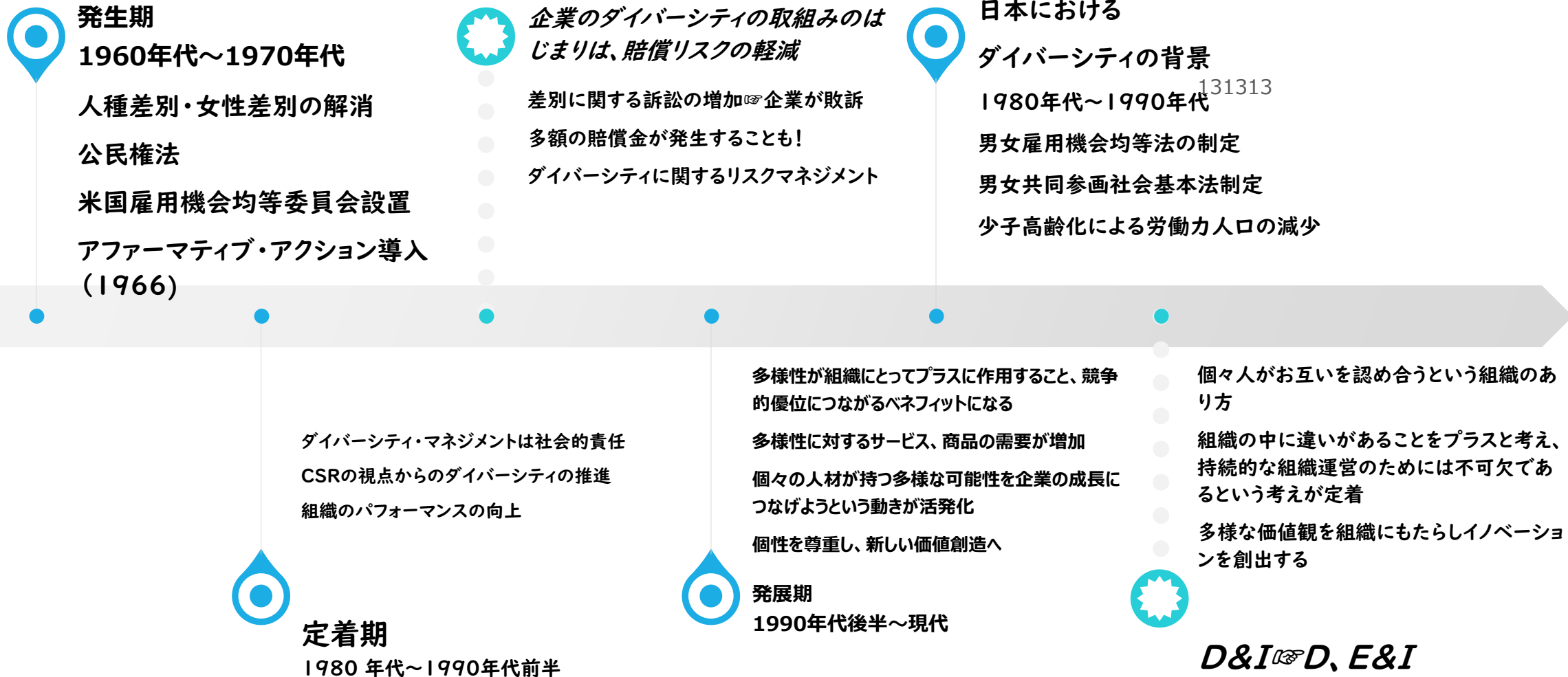
新たな生活様式・働き方を全ての人の活躍につなげるために「今こそ、固定的性別役割分担を前提とした長時間労働等の慣行を見直し、「男は仕事」「女は家庭」の「昭和モデル」から、全ての人が希望に応じて、家庭でも仕事でも活躍できる社会、「令和モデル」に切り替える時である。

みえサステナラボの意味

なぜ、F1世代の女性の経験に基づく意見が重要なのか

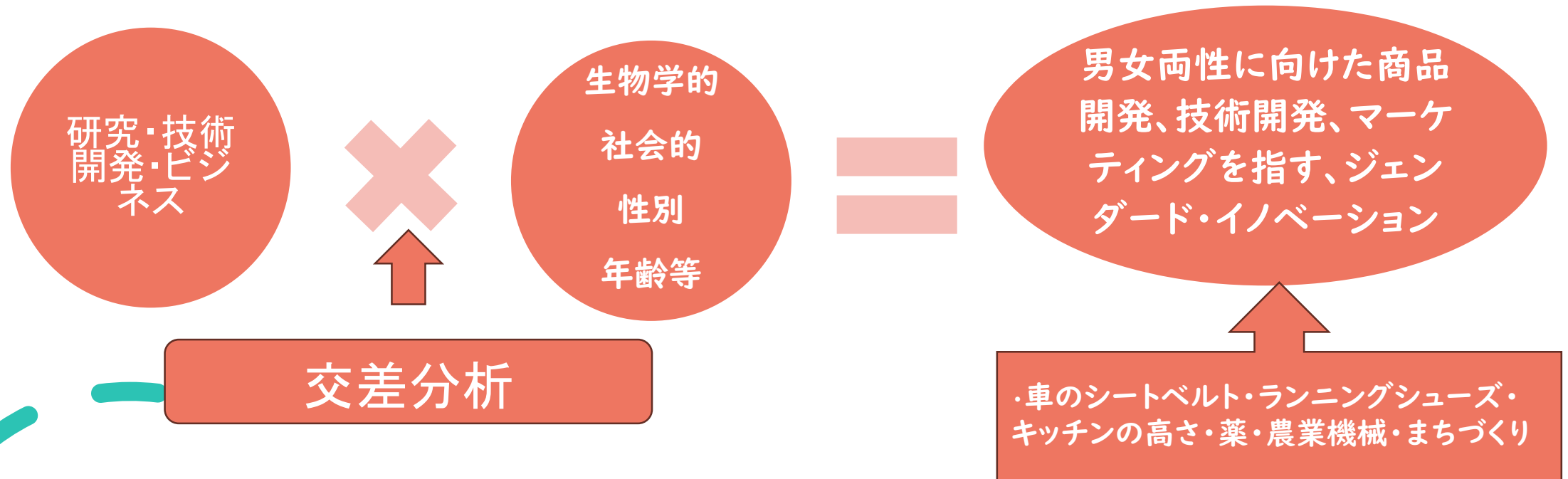
- ◆ 男性上位の慣習や、家事・育児・介護というケア労働は女性が担うべき、という固定的な意識などが根強く残っていると、結果として女性が活躍しづらい社会になるという意見が多数
- 働く女性たちが「こうすればもっと働きやすくなる」という視点で意見交換し、まとめた提言は当事者のニーズとしてしっかりと受け止める必要がある。
- 誰もが働きやすい社会、活躍できるウェルビーイングな地域社会を考えるにあたって、働く女性たちの本音の意見を聴くことは、行政や企業にとって意味がある。👉 D、E&I、ジェンダード・イノベーションへ

ダイバーシティ (DIVERSITY) の歴史と変遷



ジェンダード・イノベーションの展望

- 研究開発、技術開発、ビジネスにおいて、生物学的性差（セックス）や社会的性差（ジェンダー）とその他の要因（年齢、宗教、地域性等）の交差分析を行うことで、イノベーションを創出する概念





ディスカッションに向けて
つ・ぶ・や・き

- ・ 囲い込みから開放型へ
- ・ シェアリング・エコノミーの可能性
- ・ ワークスタイルの多様化
- 「パラレルワーカー」(parallel worker) や「ポートフォリオワーカー」(Portfolio worker)
(複数の仕事をもち、変化にしなやかに
対応していく働き方)

Q 8時間労働制はいつから？